

Title	Lattice ordered ring ノ 可換性ニツイテ
Author(s)	小笠原, 藤次郎
Citation	全国紙上数学談話会. 232 p.800-p.804
Issue Date	1942-02-12
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74941
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1011. Lattice ordered ring, 可換性 =
ツイテ

小笠原 隆次郎 (廣文理文)

實數体ヲ作用域トスル "ring lattice"⁽¹⁾ カラコノ作
用域存在ノ假定ヲ取除イタモ、ヲ lattice ordered ring

(1) 小笠原 隆次郎 "ring lattice = ツイテ" (紙上數學談話會)

以下 "ring lattice" トシテ引用。

ト呼バコトニスル。(丁度 *vector lattice* ト *lattice ordered group* トノ關係ニ於テ見ラレル様ニ)。Archimedean
ノ場合ニ可換環トナルコトヲ証明スルノガ目的デアアル。先ヅ我
カノ「表現論」⁽²⁾ハ実數体デナク有理數体ヲ作用環トノル場
合ニモ成立スルコトヲ注意スル。コレハ我々ノ方法ノ本質的
ノ部分即チ *characteristic family* ヲ用フル際ニ有理
數ニ對スルモノノミヲ考ヘレバヨイコトカラカル。§1 デハ
lattice ordered abelian group ハ常ニ有理數体
ヲ作用環トスルモノニ拡大サレル。従ツテ連続函数ニヨル表
現ノ問題解決ガ可能トナルコト。§2 デハ *lattice ordered*
ring ノ定義及ビ茲ニ於テ、目的デアアル可換性ノ証明ヲノ
ベル。

§1. L ヲ a, b ヲ要素トスル *lattice ordered*
abelian group トスル。 m, n, p, q, \dots ヲ自然數
トシ $(\frac{1}{n}, a)$ トル自然數ト L ノ要素ヨリナル對ノ全体ヲ L^*
デ表シ $nb = ma$, トキ $(\frac{1}{n}, a)$ ト $(\frac{1}{m}, b)$ ヲ恒等視シ和
及ビ正要素ヲ取ル様ニ定義シテ *lattice ordered group*
ニスル。先ヅ上ノ恒等ノ定義ガ對等關係ニ基クコトハ *lattice*
ordered group = 於テ常ニ $n(a \vee b) = na \vee nb$, 成
立スルコトカラカル。

$$(\frac{1}{n}, a) + (\frac{1}{m}, b) = (\frac{1}{nm}, nb + ma) \text{ ト置リ。コレ} =$$

(2) 前田文友, 小笠原龍次郎 "vector lattice, 表現" (紙上
數學談話會) 以下「表現論」トシテ引用。

ヨッテ $abel$ 群トナリ $(\frac{1}{n}, a) = (\frac{1}{n}, -a)$ トナル。

$\frac{q}{p}(\frac{1}{n}, a) = (\frac{1}{np}, qa)$ 1 オクコト = 依ッテ有理数体ヲ作用

用圖トスル $abel$ 群トナル。決 = $a \geq 0$, トキ $(\frac{1}{n}, a) \geq 0$

ト定タルコト = ヨリ $lattice$ ordered group トナル。

$a = (1, a)$ ヲ對應サセルコト = コツテ L , L^* ノ内 = 埋藏

サレルコト且ツコノ過程 = ヨッテ次ノ様ナ L , 性質ハ保存サ

レル: 無制限ナ $join, meet$; $lattice$ 論的單位; Archi-

medes , 公理等。今族 $(\frac{1}{n}, a)$, 代リ $= \frac{1}{n}a$ ト書クコト =

スル。コノコトカラ次ノ事がワカル。

(i) $lattice$ 單位 e が存在シテ 各要素が e = 関シテ有
限ノトキハ e = 関シテ無限小要素ノ全体ハ群ヲ作リコレニヨ
ル L , 差群ハ Archimedean lattice ordered group
トナル。

(ii) L が Archimedean , 場合ハ L , normal
ideal , 全体ハ complete Boolean algebra ヲ
作リツノ表現 Boolean space ヲ考ヘルナラバ L ハユノ
空間ノ連続函数族ヲ表現サレル。特 = $lattice$ 單位 e ヲ
有スル場合 = ハ e が恒等的 = 1 トナル如クスルコトが出来る。
之等ノ考ヘ方カラ $lattice$ ordered group ノ表現 = 関
スル Stone ノ定理 (Proc. Nat. Acad. Sc. 27(1941)
及ビツノ拡張が得ラレル。

§2. 環單位 e ヲモツ次ノ諸條件ヲ満足スル環ヲ $lattice$
ordered ring トイフ。

(1) Archimedean lattice ordered group

デアル。

(2) 環単位 e は lattice 論的 単位デアル。

(3) $a, b > 0$ トキ $ab \geq 0$

コレニツイテ次ノ定理が成立スル。

定理 *lattice ordered ring* ハ常ニ可換環デアル。
且積ハ單独的ニ定マル。

(証) R ヲ問題ノ環トシ §1ノ方法ニヨツテ有理数体ヲ
作用圏トスル *Archimedean lattice ordered ring*
ニスル。コレニハ $(\frac{1}{n}, a)(\frac{1}{m}, b) = (\frac{1}{nm}, ab)$ ト定マル
コトヲ注意スレバ分ルコトニ至ル。

次ニコレヲ実数体ヲ作用圏トスルモノニ拡大スル。(コノ
拡大ノ方法モ周知ノコトヲ思フカラ述べナシ) 斯クノ如クシ
テ R ヲ "*ring lattice*"ニ埋藏スルコトが可能トナツタ。
コノ最後ノ "*ring lattice*"ハ常ニ可換デアルコトハ既
ニ証明シタ。定理ノ後半ハ表現 Boole 空間ノ連続函数ノ積
ニ表現サレルコトカラ分ル。

定理 *lattice ordered ring* ハ單独的ニ定マル
bicompact 空間ノ連続函数ニヨツテ表現サレ和ニハ和、
積ニハ積が對應スル。

(証) 前定理ノ最後ノ部分ノ注意カラ。

次ニ各要素が e ニ關シテ有界ノトキハ環ノ積ノ結合則ハ
假定シナクラモ (1), (2), (3)ノ性質カラ結果スルコトハ
"*ring lattice*"ノ証明カラ分ル。一般ノ場合ニ之レ以
上ノ假定ヲ置カナイデ同様ノコトが成立スルモノト考ヘラレ

ルが未ダ証明が出来ナイ。(尤モ應用=降々表ハレル regular / 場合=ハソノ成立が分ルカラ("ring lattice" / 証明カラ)ハ自由ハナイト思フガ)。

(訂正) 小笠原藤次郎 "Boolean space = シイテ"
(紙上数学談話會), 「定理、無制限 = L , join, meet
ヲ保存スルヤウナ L ヲ含ム最小 / complete vector
lattice \overline{L} が存在スル。 \overline{L} ハ何レモ $\overline{L} = \text{linear-}$
 $\text{lattice-isomorphic}$ ナイル」 / 証明=於テ \overline{L} / 説
明中 " $L = \text{ヨツテ majorize}$ サレル要素 / 全体" ハ
" L / 要素 / 切断トシテ教サレル要素 / 全体" = 改メル。
尚コノ定理ハ Clifford / (Annals of Math) 定理ヲ
ニ對應スルモノデアルコトが分ツタ。